

吉田つとむ

YouTube動画 860万回再生を突破



人口5000人の小さな町が進化を続ける

参加した「清溪セミナー」の講演:大南信也氏(認定NPO法人グリーンバレー理事)は、鉄道駅がない徳島県神山町の出身、現在も居住、生コン会社や建設会社を運営される方でした。神山町は、交通の利便性を求めるのではなく、通信の利便性を優先し、ネット企業の誘致(サテライトオフィス)を図るものですが、それが現実となって10社以上の企業が展開しているというTVニュースを見て事前に知っていました。私は、そのような魅力ある町になったのかという点に関心を持ってきた次第です。

その源流には、戦前にアメリカから(平和交流のために)やってきた「青い目の人形」が、たまたま神山町では密かに保存され、その人形を里帰りさせる活動があり、その人脈と幅広い芸術活動が人を結びつける活動につながり、その中で、海外の芸術家も多数訪れる、一時滞在の人材を増やしている文化を作り上げてきたとのことでした。町が街を形成し、その文化にあったカフェができる風土が生まれたとプロセスを聞きました。

町田市を中心街の惨状(大型商業ビルに空きが出来ている。もっとも、顔になるべきエリアが遊技場になってしまう)を変容させる街設計の参考になると気を強くしました。



いわゆるZ世代の政治家像について

Z世代の代表の一人とされる「能條桃子氏」の講演を、「清溪セミナー」で聞きました。本人は、Z世代と言われることを好まず、U30(30歳以下)という言葉に親近感があるようでした。その学生時の体験で、デンマークの政治、政治家の活動を紹介し、特に印象的なことは、学校給食に政治家が遊びに来る光景に遭遇したというものでありました。日本でいえば、管理の問題、衛生上の観点から部外者を排除する傾向が先に立ち、同様な方法を採用するのは、ほぼ難しいのではないかと思います。それは、政治家がそうした方法に背を向けているのではなく、執行者や執行機関が物事を面倒がって、排除しているのが正確な表現だと思っています。



ただし、能條桃子氏が問題意識を持つように、日本の場合は人の日常生活に入るのではなく、組織化された人の集合を対象に、政治家が行動していると言えるでしょう。政治家は、絶えず、自分が挨拶できる場所を探し、その場所と時間を移動しまわることによって、政治活動と認識しているとしか思えないのが実状です。なぜなら、こうした政治家の活動スタイルは、能條桃子氏の判断と異なり、むしろ、若い政治家の方が決まりきった組織に乗りたがる傾向を示しており、それを速やかに改善されるべきものと思っています。

◎町田市議会は定数36名。大多数はそれぞれの会派に所属しますが、会派に属しない諸派議員が4名です。吉田つとむは、「無所属」という3名の会派に所属しています。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。

所属する会派「無所属」の3名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。

吉田つとむ

町田市議会議員(4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



アグリビジネス創出フェアを見学する

東京ビックサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア」を見学しました。



畜産分野のコーナーでは、子牛用のマフラーや防寒コートを製造・販売する会社:株式会社オオツキのコーナーに立ち寄りしました。子牛は寒さに弱いということだけでなく、暑さに弱いということでした。マフラーは防寒用だけでなく、暑さによる脱水対策用の接触冷感マフラーもありました。この株式会社オオツキは、元来、ユニフォーム・作業用品の会社であることがわかりました。ユニフォーム製造が本業のようですが、USIMO事業部という部署を作り、企業として新しい事業を立ち上げて、それを育てることに頑張っている姿を目にしました。

他に、全国の自治体のコーナーが並んでいましたが、いずれも大学との共同研究の発表、あるいは製品展示がされていましたが、大学教授が先頭だって、その製品PRをしている姿が特徴的でした。

ゲームで学ぼう!食品ロス

日大商学部の大学祭企画に参加して

世田谷区砧にある日大商学部の大学祭(第51回砧祭)に初めて出かけました。「秋川ゼミ」は、「ゲームで学ぼう!食品ロス」というタイトルで、流過程で発生する食品ロスに関するボードゲームの体験会でした。

そのゲームは、参加者が、食品販売の「小売り」と「卸売り」に分かれ、選択した「小売り」は客にある商品を古い順に売り、締め切り時点で余りなく売り切るゲームですが、販売期間がかり過ぎたものはフードロスとして、廃棄するものでした。販売高を売上金、廃棄分を損金とし、最終的な販売額として計算しました。私はやや優位な20ポイントを獲得しました。このゲームの卸屋さん、顧客に品切れで売りそこないが少ないように在庫管理し、あるいは消費期限切れ商品を廃棄することになります。販売高と、売り損ないと消費期限れの廃棄高を相殺し、総合売上高を計るものでした。ポイントは聞きませんでしたが、ロスがやや多めのようなのでした。学生が自作したゲームですが、よく出来ていると評価しました。



◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう!
○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。
○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。
●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第51期生を募集予定

インターン体験記⑩小林 怜奈

今回、私は山梨県南アルプス市にあります「和ふうる株式会社」に伺いました。



隣の浅川部長より、丁寧な説明とご案内を頂きました。

こちらの会社では国産に拘った商品を取り扱っており代表の方が十数年滞在していたフィリピンを中心として冷凍食品、酒類、化粧品類、ゴルフ用品などを現地パートナー企業を通して販売されているそうです。その中でも私達は新規参入した農業についてお話を聞かせて頂きました。農業分野では水耕栽培に力を入れており自社で開発した農業機器を使いイチゴの水耕栽培実験をされていました。

また会社で所有しているビニールハウスで一部、町田市シルクメロン栽培方式の機器を導入してメロン栽培もおこなっていました。こちらのメロンは道の駅にモモやブドウといった競合する果物が品薄になる時期にも販売されるそうです。生育上ビニールハウス内を21℃に保たないといけないため寒い時期にはメロンの代わりにイチゴが栽培されているとのことでした。



「和ふうる株式会社」の温室を見学。メロンの実が実る時期は外れていましたが、後方が町田式新農法の水耕栽培で育てるメロンの苗が植えられています。



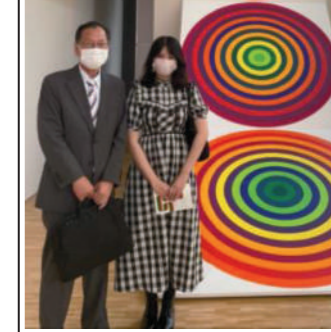
茨城大学1年生 小林 怜奈(第50期生)

瞬間冷凍させた冷凍ブドウの詰め合わせも販売されており、こちらは南アルプス市のふるさと納税の返礼品として活用されています。私は山梨で有名なモモやブドウを栽培せず敢えてメロンやイチゴを栽培されているのが興味深いなと思い、山梨独自の品種の開発・栽培・販売を行えば地域活性に繋がるのではないかともしました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年9月末までに103名が参加しました。
◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

インターンシップで若者育成の貢献
町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記⑩下津陽菜乃

今回は吉田つとむ議員の元インターンシップ生の渡辺さんにお会いし、お話を聞かせていただくことができました。前は私の大学のOGでもある石井さんからも就職活動についてのお話を聞かせていただき、就職活動をする上で社会人の方から体験談やアドバイスを聞くことの大切さを改めて感じました。渡辺さんは金融機関で働いていらっしゃるということで、金融業についてのお話を聞かせていただきました。私が所属している学科の就職先は金融業界が多く、私も少し興味を持っていたのでお話を聞く事ができて良かったです。



この日は、町田茶道会のお茶会にも参加しました

また、就職活動の軸についても私とは違った軸を持っていたので、そのような視点からも自分の就きたいと思うことのできる仕事や働きたいと思うことのできるものを見つけることができたと分かります。自分の就職活動の軸を見つめ直すことができましたと思います。今回が吉田つとむ議員の元でのインターンシップの最終日だったのでした。インターンシップに参加する上で視野を広げることを目標としていたのですが、今まで関わったことがなかった仕事についてのお話を聞く事ができたり、就職活動をする上でのアドバイスをいただけただことで視野を広げることができたと思います。レポートをこうして書くのは苦手なのですが、インターンシップを振り返って体験したことや感じたことを書くことでさらに自分の成長につなげることができたと思います。

昭和女子大3年生 下津陽菜乃(第50期生)

インターン体験記⑨近藤 咲月

先輩インターン生の渡辺さんと面談

本日は吉田議員の元インターン生の方との対談に参加させて頂きました。お話を伺わせていただいたのは大手信用金庫にお勤めの渡辺さんで、学生時代から社会人になった現在までのお話をお聞きすることができました。渡辺さんは私と同じく女子大学出身であるということで、吉田議員のインターンにも参加されていたという共通点も多く、就職活動に向けた取り組みや学生時代の過ごし方などとても細かく丁寧に質問に答えてくださいました。また大手の信用金庫にお勤めとのこと金融機関について何も知識のなかった私にとって新しい分野に興味を持つことのできた機会となりました。

お話の中で特に印象的だったことは、私自身がまだ専門職か一般企業の一般職で働くのか迷っているという相談のなかで、どうして道を変えたいと思ったのかという自分自身のなかのきっかけや意思が必要であり大切だと助言して下さったことです。単純な気持ちではなく自分の意思を裏付けながら自分の道を決めていく必要があることが分かりました。社会人として働いている方のお話をお聞きすることができたことはとても貴重な機会となり、私自身大きな刺激を頂ける対談となりました。

昭和女子大2年生 近藤 咲月(第50期生)



*第50期生のインターン研修は終了しました

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。
◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が大好評です。
◎吉田つとむの元インターン生は、一般企業就職が最大で、次いで公務員。弁護士が3人です。